

【 参加建築家・アーティスト プロフィール 及びパビリオンプラン 】



石上純也

1974 年生。東京藝術大学修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て、2004 年石上純也建築設計事務所を設立。日本建築学会賞、第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞など受賞多数。主な作品に「神奈川工科大学 KAIT 工房」、「水庭」など。2018 年、パリのカルティエ現代美術財団で大規模個展を開催。



筒形のひさし (仮称) 設計：石上純也 (本プロジェクト案)

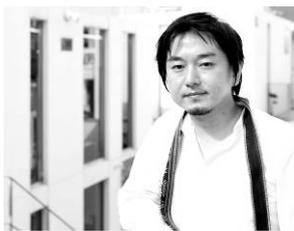


妹島和世

1956 年生。日本女子大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所を経て独立。95 年に西沢立衛とともに SANAA 設立。主な作品に「金沢 21 世紀美術館」、「DIOR 表参道」、ルーヴル美術館の分館「ルーヴル・ランス」など。第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にて、日本人、そして女性として初めてディレクターを務める。プリツカー賞、日本建築学会賞、紫綬褒章他受賞多数。



雲のように浮かぶパビリオン (仮称) 設計：妹島和世 (本プロジェクト案)



平田晃久

1971 年生。京都大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所を経て 2005 年に独立。主な作品に「Kotoriku」、「太田市美術館・図書館」など。第 13 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、村野藤吾賞など受賞多数。2016 年にニューヨーク近代美術館の“A Japanese Constellation”展に参加。現在京都大学教授。



Glowbal bowl 設計：平田晃久 (本プロジェクト案)



藤本壮介

1971 年生。東京大学卒業後、2000 年に藤本壮介建築設計事務所を設立。主な作品に、「House N」、「武蔵野美術大学美術館・図書館」、ロンドンの「サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013」など。2011 年の「台湾タワー」ほか、多数の国際設計競技で最優秀賞を受賞。現在、フランス、ベルギーなどで数々のプロジェクトが進行中。

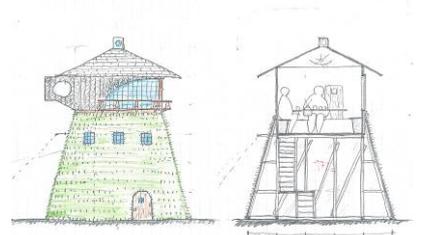


原初的な未来の塔 設計：藤本壮介 (本プロジェクト案)



藤森照信

1946 年生。東京大学大学院博士課程修了。現在、江戸東京博物館館長、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。近代建築史・都市史研究を経て 1991 年、45 歳のときに〈神長官守矢史料館〉で建築家としてデビュー。土地固有の自然素材を多用し、自然と人工物が一体となった姿の建物を多く手掛けている。建築の工事には、素人で構成される「縄文建築団」が参加することも。代表作に〈タンポポハウス〉、〈ニラハウス〉、〈高過庵〉など。近作に〈多治見市モザイクタイルミュージアム〉や「ラ コリーナ近江八幡」の〈草屋根〉、〈銅屋根〉などがある。



茶室 2020 設計：藤森照信 (本プロジェクト案)



藤原 徹平

1975 年生。横浜国立大学大学院修士課程修了後、隈研吾建築都市設計事務所にて、世界 20 都市以上のプロジェクトを担当。2009 年に独立、2012 年より横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授を務める。建築のみならず美術展の会場構成や、NPO 法人ドリフターズインターナショナル理事として、建築・映画・ファッションなど異文化の融合が生み出す新しいプロジェクトを幾多の都市で実践している。

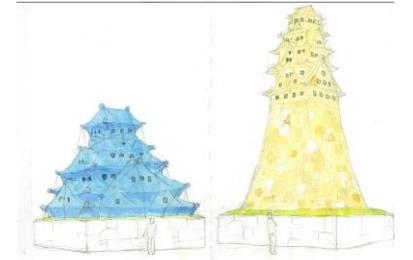


ストリートシアター 設計：藤原徹平 <プロジェクト案>



会田 誠

1965 年生。東京藝術大学大学院修了。2012 年、森美術館で大規模個展「天才でごめんなさい」を開催。平面作品に限らず、彫刻、パフォーマンス、映像など多彩な活動を行う。



東京城 2020 (サンプルとブルーシート) 作：会田誠 <プロジェクト案>

※ 建築家、アーティスト各五十音順

※ 参加建築家・アーティスト及びプラン等は変更となる可能性があります。